

視 察 日 時	令和6年10月2日（水） 14時00分 ～16時00分
視 察 先	愛知県安城市（説明：市民生活部アンフォーレ課）
視 察 項 目	図書館（アンフォーレ）の建設及び運営に関する取組について
視 察 概 要	〔はじめに〕 アンフォーレは、図書情報館やホール（客席数255席）がある本館、イベント等が行える願いごと広場や公園がある公共施設と民間経営による駐車場や商業施設がある複合施設である。JR安城駅を中心とする中心市街地内の市有地（約12,305平方メートル）において、①公共施設の整備等を行うPFI事業と、②民間施設の整備等を行う定期借地事業との一体的な実施により整備された。 （１）事業開始の経緯 元々、中心市街地にあった総合病院が平成14年に郊外に移転した。1日約3,000人の来街者がいなくなり、人が集まる施設の整備が求められた。様々な施設を模索した中で、図書館の来館者が、当時の安城市の公共施設で2番目に多かったことから、図書館の移転再整備が施設の核となった。また、当時の中央図書館は、蔵書収容能力の限界、閲覧席や書架の不足等の課題への対応も求められていた。 （２）併設の際の建設及び運営予算 図書館も含めたアンフォーレ本館の建設予算等は、設計費が約1.5億円、建設費が約44.5億円、維持管理費が約1億円/年、合計62億5,320万円であり、平成26年3月から令和14年5月までのPFI事業契約となっている。 図書情報館（2F～4F）部分の主な運営費（令和6年度予算）は下記のとおり ・会計年度任用職員人件費：150,206千円 ・公民館、学校図書配送業務：10,385千円 ・図書館資料購入費：82,000千円 ・図書館システム、ネットワーク等保守費：37,824千円 ・公民館、学校ネットワーク回線使用料：5,998千円 （３）事業の成果と課題 ・図書情報館（2F～4F）部分は、63名の会計年度任用職員がシフト制で運営している。

	・市内29校の小・中学校とシステムを一元化し、本を検索できるようにしている。週2回、シルバー人材センターに依頼して、学校へ本の配送を実施しており、以前より利便性が向上している。 ・アンフォーレ本館の入館者数は、平成30年度の約122万人をピークにコロナ禍で約66万人まで減少したものの令和4年度は約96万人、令和5年度は約108万人（1日平均3,174人）まで回復している。 ・地元企業から雑誌の提供を受け、表紙に自社の宣伝ができる雑誌スポンサー制度を実施している。スポンサーが各雑誌の購入代金を支払い、雑誌最新号のカバーの表紙、裏表紙、棚板に広告をつけることで、自社の宣伝効果を期待できる。スポンサーの募集は、商店街や商工会議所に依頼し、開館当初の平成29年度は、8社20誌だったが現在は35社71誌まで増えている。 〔質疑応答〕 Q. 図書館の課題を伺う。 A. 高校生や大学生への読書活動推進、来館者の増加が課題である。 Q. 施設が4Fまで吹き抜けになっているが、音の問題を伺う。 A. 音への苦情はある。利用者からは静かな部屋の希望がある。閉鎖された部屋やスペースがないことが課題である。 Q. 賑わい創出拠点スペースの利用率について伺う。 A. 広場の稼働率は33%であり、平日や雨の日の場合は少ない。イベント以外では周りの店を使うことが少ないと思う。これらを改善することに課題がある。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	安城市の人口は18万7,000人で、トヨタの進出や住宅地の拡大などにより、5年間で3%と人口増加を続けている。アンフォーレが建設された場所には、元々市民病院があり、1日約3,000人、年間100万人が行き来していた場所であった。アンフォーレは、賑わい創出の複合施設として開設された。 施設内には、住民票や印鑑登録証明書などの証明書、パスポート申請や受取も可能な証明・旅券窓口センターが設置され利便性を高めている。また、ホールや会議室をはじめカフェや出店可能なスペースなどもあり、市民サービスの向上や賑わい創出への取組が見られる。 今後、図書館を建設する予定の本市にとっても賑わい創出を目指す上で、参考になる取組があった。